

人権啓発教材 DVD

いのちに寄り添う

～ターミナルケアと人権～



どんな風に生きて

どんな風に最期を迎えるのか

研修用 解説書データ収録

上映時間/35分	価格/66,000円(税抜)	DVD	字幕版・副音声版 同時収録	商品コード/C#2573
----------	----------------	-----	---------------	--------------

「親父をうちで引き取る？それは無理だろう。施設かなあ」

「え？がん？それは大変だ。

仕事なんかいいから。病人なんだから。君がいなくても、大丈夫だよ」

もしも、あなたの身近な人が、重い病になったとしたら？

このビデオでは二組の「いのちに寄り添う」人々に密着取材。

2人に1人が、がんになる時代。

現代に生きる全ての人々が学ぶべき、命の教材です。



ナビゲーター
中村有志
福岡県立小倉南高等学校卒業後、
劇団「テアトル・エコー」入団。
俳優として数々のテレビドラマ・映画
に出演しながら、テレビ番組の司会・
リポーターや舞台など幅広く活動
している。

CHAPTER 1

最期を迎える人のために



～自宅介護で父に寄り添う～

有泉仁さん。認知症と痛を抱える父・有友さんを、訪問医療やデイサービスなどを利用して自宅で介護しています。「病院には、いられなかった。特養は、2年待ちと言われた」母・みさ江さんもまた認知症を抱え、妻・佐和子さんと一緒に自宅で支える毎日。仁さんが会社を辞め、自宅介護を続けるという高い壁を越えていく過程で、多くの支えと気づきがありました。「父親が元気なうちで、同じ屋根の下にいても、すれ違うだけだった。親の死って突然来る人もいる。逆に、自分は幸せなのかなって感じている。ただ、寄り添うことしかできないけれども」

CHAPTER 2

働き続ける人のために



～がん治療しながら働く仲間に寄り添う～

小林裕さん。会社の定期健診で、治療が難しいと言われる胆管がんが見つかりました。「仕事ができなくなったら、何しようかな」と上司の榎本さんは「病気は彼が持つ状況で、介護・育児などと同じ。多様な働き方を許容することが大事」と受けとめ、小林さんは在宅勤務をしながら治療を続けています。また、主治医の佐原医師は、当初治療に消極的だった小林さんと、正面から向き合いました。「ベッドサイドで互いに2時間くらい喋った(笑)」小林さんは「あなたが必要、と言われることが、その人の尊厳だと思う」と語ります。

CHAPTER 3

互いの命を尊重するために



～父が教えてくれたこと～

有泉さんの医療チームが、病状が変化した時の対応を確認するカンファレンスのために集まりました。「親父、いざという時はどうしたい？」息子の問いに有友さんがポツリと一言「いい塩梅に・・・」彼らしい一言にチームの皆に笑顔がこぼれます。そして、最期まで支えようとする周囲の姿に、認知が進んでいるはずの有友さんの目から一粒の涙が・・・

そして、遂に訪れる別れの時。
息子の仁さんは、父のいのちに寄り添う日々の中で教えられたことがあると言います。

終末医療の在り方、病気との向き合い方は、ひとりひとり違います。

ただひとつだけ言えること。

それは、誰もが命の主人公だということ・・・



《解説/出演》 医師 内藤いづみ

山梨で在宅ホスピス医療を25年以上実践する医師。
東京女子医大内科等に勤務後、昭和61年から英国のホスピスで研修を受ける。
平成7年にふじ内科クリニック開業。ホスピス・在宅ケア研究会やまなし代表。

プロデューサー：岡部圭一郎/山口多美子 監督：長谷川知嗣 構成：山上梨香 制作協力：クリックス 企画・制作：東映株式会社 2017年度作品
協力：ふじ内科クリニック 特定非営利活動法人かんむら 富士ソフト株式会社 東京医科大学病院

予告編配信中！

教育映像

検索

<http://www.toei.co.jp/edu/>

 東映株式会社 教育映像部

<http://www.toei.co.jp/edu/>

関東営業推進室 〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-6 ☎06-6345-9026
広島出張所 〒730-0015 広島市中区橋本町5-2 ☎082-511-2066
福岡出張所 〒810-0801 福岡市博多区中洲4-3-18 ☎092-262-3101

●お買上げは